

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社 ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地	三重県松阪市射和町644-2		
自己評価作成日	平成 22 年 2 月 1日	評価結果市町村提出日	平成22年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470700986&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心してもらうために日中は1人にせずいつもスタッフが傍にいて対応するよう心がけている。また、笑いがある活気あるグループホームとして現在レクリエーションなど勉強している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あり畑ありの自然豊かな環境の中に位置しており、デイサービス併設のまだ新築を思わせる事業所である。地域の利用者が多いデイサービスとは交流も多く、日常的にグループホームからデイサービスに顔を出される利用者もいる。職員みんなで作ったと言う理念「家族的な温かい雰囲気・・・」通り、利用者と職員間のふれあいも多く、また職員間も何でも言いたいことがいえるし連携も良いと職員が自慢する、なごやかな笑いのある大家族を思わせる雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な温かな雰囲気、生きがい自立、人間としての尊厳、安全な生活、ふれあい」と基本理念があるので日々取り組むよう心がけてはいるが、業務に追われてしまっている為、実践になかなかつなげられないことがある。	地域や家族とのふれあいも加味した事業所独自の理念があり、日々いろんな場面で話し合い、サービスの具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やドライブなどにでかけたり、小学校の文化祭などの行事に作品の出品をしている。	地域の自治会にも入り、催物に参加したり、介護予防講座で講師役を引き受けたりしている。また事業所の祭りには来てもらったりと、地域住民との相互関係作りをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会にて 自治会長、老人会長 民生委員の方々が参加されており、その会議の場で地域の高齢者の暮らしに困っていることなどないかを話し合い 取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるまでにはいけていない。	7, 9, 12月と実施しており、事業所の取組状況や災害訓練等議題は報告が多い。	事業所からの状況報告がメインの会議になっている。せっかく自治会長や民生委員の出席があるので、種々意見を頂く場にしていただきたい。またできるだけ年6回以上の開催を期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議にて市町村の方々と面識をもつ以外 積極的には連絡取れていない。	サービスの実情や取組み上の問題点等は、市のグループホーム担当者と日常的にメールでやり取りすることになっているし、電話連絡もあり連携は取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束行為は人としての尊厳に関する事を理解し取り組んでいます。 玄関・居室の施錠することなく自由に出入り可能。 家族の了解を得て四点柵を使用しているが、できる限り使用しない方向で取り組んでいます。	身体拘束をしないことに関する理解は全職員がしており、きわどい質問をする勉強会や通達を出したりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習を開催して 学ぶ機会を持っています。 虐待が見過ごされないように 職員一同で注意を払い、防止に努めている。 業務に流されてしまっていることがあります。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居様に該当する方がなく 浅い知識の為今後 研修の機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただけるように務めており 現状・苦情はない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日々の会話の中で要望や意見など聞き、家族は家族会や面会時に意見や要望など聞いて、応じられるように努めている。外部者へ表せる機会としてグループホーム運営推進会議で代表者に意見をもらっている。	運営推進会議には家族代表者が出ているし、年2回の家族会もある。利用者とは日常的な会話の中から、また家族とは訪問時には必ずご意見を伺うことをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回 カンファレンスを開催しており 職員の意見・提案を聞く機会をがある。緊急内容については、臨時的にも開催していることもある。	職員は日常の支援の中でも意見や提案を言っているし、定期的な会議も月2回以上あり、管理者も運営への反映を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる時には就業場所で一緒に仕事をし勤務状態を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得など 個々の目標に向える支援し、県内研修は積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えることを十分に傾聴し、安心な生活ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族から家での困っていること、不安なこと、要望等にしっかりと傾聴し共感の気持ちでゆっくりと聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度でも話を根気良く聞き、家族が望むスタイルを考えて支援に努めている。(希望によるスタイルにて他の施設も紹介する)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が家族的な雰囲気作りを努めているが、なかなか暮らしを共にする者同士の関係とはあまりいえない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの際など家族との会話などで絆を大切にしようとするように心がけてはいる。月一回の新聞発行で利用者が施設での状態報告に勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に、家族から昔の様子などを聞いて、出身地や昔の様子など時々会話に入れて支援に努めている。	知人の訪問は少ないが、以前住んでいたところの畑に行き、畑仕事をしてくる方や親族の結婚式で帰宅される等家族との関係が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の談話・レクリエーション等に参加していただき利用者同士が関わりあえる環境作りを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されたり、特養へ入所された利用者様とは継続的に連絡を取って様子の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とコミュニケーションしっかりとって、行動や表情・言動などみながら、ニーズの把握に努めている。	センター方式の様式を用い、利用者との日常会話の中から、家族からは生活歴などを話してもらい希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から 生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムやADLが違うので、出来ることに着目をおいて支援している。様子・変化などを常に観察し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録などへ日常の様子や変化などの記録し、カードデックスにより職員間に共通の情報連絡にしている。家族の面会時には日ごろの様子などを伝え、意見・要望などを聞いて介護計画に取り組んでいる。	二人の職員が二人の利用者を担当する受け持ち制を採用しており、家族の意向も入れ全利用者を毎月モニタリングしている。変化時は随時の見直しをする。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードデックスを作成し、日々の様子・気づきや工夫を付箋にて記入し貼付し、申し送りにも使用し情報を共有しながら、全ての職員が確認できるようになっており、介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズを把握し希望に添える様に出来る範囲で対応している。家族の状況に応じて、通院介助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練は年二回施行。地域の小学校への文化祭の参加 夏祭りでのボランティアによる催しものを観覧し楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月一度は受診・往診してもらっている。日々の様子で何かあれば、連絡し受診などできるように対応している。日々の本人の状態を受診時に連絡できる用紙を使用している。	利用者や家族の希望のかかりつけ医となっており、事業所の協力医は往診もある。通院介助は原則家族であるが、職員が行う場合も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営者が看護職であり、利用者の体調や状態変化など気づいた点があれば報告・相談をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、入院時の情報提供書で情報を伝達し、家族と病院と連絡を取り、情報交換や相談し、早期に退院できるように努めている。退院時はかかりつけ医との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族とその都度協議をおこなっており、事業所としてできることを支援させて頂くよう努めている。	事業所としてここまでは出来るという対応方針を作っており、利用契約時に家族と話し合っているが、利用者の状態により、その都度話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・初期対応は職員各々が把握してはいるが、訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。夜勤帯を想定しての訓練も行っている。地域の方々の協力が得られるように自治会長さんをお願いしている。	年に2回以上建物からの避難を主に訓練しており、夜間想定も行っている。	夜間の職員数の少ないときを想定した訓練もされてはいるが、災害時は地域の助けが必要となる。ぜひ地域の方々を巻き込んだ訓練をされるよう期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけには気をつけるように心がけている。	日常の支援時においても利用者の尊厳を損ねることのないよう心掛けており、特に言葉かけには注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴え・様子・表情などを日ごろから声掛けして努めているが、なかなか自己決定されない利用者に対して、希望などを把握できるような方法を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがほぼ決まっている、その流れを元に利用者一人ひとりに希望にそって支援しているが、どこまで希望を受けていくべきなのか難しい方もあり、職員側の都合を優先してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意見を尊重して服装の準備をおこなっている。おしゃれとはいかないが今ある服と色合い季節的なことを考えて着ていただくように配慮してはいる。利用者の好みについての少し確認ができていない場合がある。つめきり・髭剃り・散髪・髪型はまめに声掛けをおこない身だしなみに配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて 盛り付け、食事の下膳など手伝っていただいているが、一部の人に限定されている	朝食と夕食はホーム内で、昼食は併設のデイサービスで作ったものを食している。利用者も盛り付けや片付けを手伝っている。	重度の方が多く職員は介助に回っている。食事は利用者、職員双方にとって楽しみなものになるよう、同じ食事を一緒にとる工夫をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて キザミ・ペースト状などで対応を行っている。食べた量を記録している。水分量も記録して 不足がちにならないように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、声掛け・介助支援を行なっている。自分の歯がまだ残っている方々には月二回ほど歯科衛生士に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	二時間ペースの基本介助とし、個々の排泄状況で誘導介助も行なっている。全員がトイレで排泄できるよう心がけて介助行なっている。排泄失敗の少ない方々はリハビリパンツからパンツへの移行へ勧めている。	個々人の排泄パターンを把握し、2時間以上座っていると体が硬くなるので、身体を動かすことも目的として2時間ペースで声かけし、自立にむけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数を記録し、各個人の排泄状態を確認している。二日排便ない時は下剤を服用していただいたり、冷たい牛乳など飲んでいただいている。朝食後にトイレ誘導を心がけ排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員の都合に合わせてしまっており、午後になっている。入浴日は1日おきに入浴できるよう支援している。お風呂のお湯をその都度入れ替えて きれいなお湯に入浴していただいている。季節によっては柚子・菖蒲など入れるなどして楽しんでいただいている。	座位の姿で入浴できるよう設備されており、車イスの方にも苦痛なく入浴できる。一日おきに支援されており、入浴拒否の方もリードのうまい職員がおり、全員が入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はゆっくりと居室で一時間程度休まれるよう声掛けしている。夜間は利用者自身のペースで寝てもらっている。寝る前にホットミルクを飲んでいただきスムーズな入眠を図っている。居室の空調などに気をくばっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が準備から介助まで職員がおこなっている。カードックスなどで内服薬の情報記載し、職員が認識できるようにおこなっている。内服変更や追加などあるときは、申し送りなどに記載し、カードックスへの記載をおこなっている。カードックスは毎月更新をかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物タタミ・食器拭き・配膳など利用者一人ひとりのできることを探して、お願いして手伝っていただいている。嗜好品や楽しみごとは話を聞き、行事の係りが考えて実施できそうなことは行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や散歩・買い物など出れる時は声掛けしながら出かけられるように支援しているが、個人的に外出できることはほとんど出来ない状態である。利用者の中には外出でたがらない方がいる。	天気が良く風のない日は、散歩や庭に出ているときが多い。普段行けないお墓参り等は家族の協力で行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度を財布などでお持ちになられているが、買い物や行事などには預かり金から使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話できるように配慮している。手紙は自由に書いてもらっている。家族などからの電話などがある時は取り次ぎなどの支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日何回か換気に心がけ、廊下や居室には加湿器設置し、エアコンの利用したりし、利用者が安全・安心して生活が送れるようにここをがけている。花や飾り物などで季節を感じていただけるように努めている。	大きな窓があり明るい日差しが入ってきているし、窓からは遠くの山や田畑が見える。食堂兼居間では利用者はくつろぎながら食事準備中の職員と話ができるし、季節を感じさせる花や壁飾りがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、ゆったりとくつろがれている。一人になりたい時は居室へ自由にもどられて過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方々に家で使い慣れていた家具など、好みのものを持ってきてもらい、利用者が落ちついて過ごせる環境づくりを配慮している。利用者の状態でシンプルな居室環境になってしまわれていることもある。	写真や壁飾りの多い人や家具類を持ち込んでおられる人、持ち込まない人、夫々自分流に部屋作りをされている。部屋の床もクッション製にし、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人ひとりのできる事・出来ないことを把握して見守り・介助を行なっている。施設内は手すりの設置・床はバリアフリー、トイレの場所などわかりやすいよう工夫している。		